

**倒壊家屋・埋没車両・
高所に取り残された負傷
者を救出**

グラウンドでは、地震によって多くの負傷者が出ることを想定し、消防本部救急隊や自衛隊によって医療救護所と応急救護所が迅速に設置されました。

その後、消防団員らが土砂を撤去し、埋没した車両から負傷者を救出。また、市消防本部の救助隊員が、倒壊した家屋の屋根にチェンソーなどの工具を使用して救出口を確保し、家屋内に閉じ込められた負傷者の救出と搬送訓練を実施しました。

救護所では、次々に搬送される負傷者の状態を的確に判断し、軽傷者は自衛隊が設営した応急救護所に誘導。重傷者は応急手当の後、救急車で病院に搬送する訓練を行いました。

また、災害対策本部は兵庫県消防防災航空隊にヘリコプターを要請。高所救出訓練として、同隊のヘリコプターから青溪中学校屋上に隊員が降下し、取り残された負傷者を救出しました。

その後、消防本部と消防団による消火訓練と市婦人防火クラブのみなさんによる非常食等の炊き出し訓練が行われました。



ヘリコプターを使用しての高所救出訓練



倒壊家屋から負傷者を救出する消防本部隊員ら

**伊佐小学校児童が
「震度7」の揺れを体験**

訓練開始後、青溪中学校と同様に避難訓練を実施した伊佐小学校では、児童らが地震の揺れを体験できる「起震車」で震度7の揺れを体験しました。

弱い揺れが徐々に強くなると、いすに座っていた児童らは机にしがみつき、立つこともできない震度7の揺れの大きさに驚いていました。



起震車で地震の揺れを体験する児童ら

**防災意識の向上を確認
して訓練終了**

訓練終了後に行われた閉会式では、西村良二但馬県民局長が「阪神・淡路大震災と台風災害の教訓を踏まえ、多くの団体のみなさんが参加し緊張感のある訓練ができました」と講評。

梅谷馨市長は「万一の場合にいかに対応するかを実践するための今回の訓練が、官民一体となって意義のあるものになったと思います。今後も安全・安心な地域となるよう行政を進めていくとともに、お互いに助け合う心を市内に充満させていかなければなりません」とあいさつしました。